

図書館総合展を経て

文学部哲学科 安田 さくら

私たち同志社大学図書館情報学研究会 DUALIS は、第18回図書館総合展ポスターセッションに「クイズによる育成システムを用いた読書支援ゲーム」というテーマで出展し、運営委員会特別賞をいただきました。今回は、ポスター制作の経緯と図書館総合展に参加しての感想を述べさせていただきたいと思います。

DUALIS は2013年から図書館総合展にポスターを出展しており、今年で4回目の出展となります。今回のポスター制作は、図書館演習52クラスzグループに所属しており、かつDUALISにも所属している3回生5人が中心となって行いました。我々5人は、図書館演習における修了レポートのための研究として、原田先生の「感性パラメータ」の研究を主軸とした、こどもを対象にした読書の結果によってキャラクターを成長させる育成ゲームとしての読書支援システムの開発を行っており、今回のポスターはその研究の中間発表として作成しました。ゲーム制作に関して、図書館演習52クラスzグループ以外のDUALISのメンバーにもアイデアの提案やデータ入力などで協力してもらったため、ポスターはDUALISとして出展しました。

ポスターは11月8日から始まる総合展に向けて、10月から制作を開始しました。5人全員がポスター制作は初めてであったため、ポスター制作のための本を読んで基本的なポスターの構成について学んだり、ラーニング・コモنزのラーニングアシスタントの方にアドバイスをいただいたりしました。開発中のゲームは、クイズと育成機能と読書の推薦機能を掛け合わせたものであり、全ての根幹を成す「感性パラメータ」というシステムも一言で説明できるものではなかったため、ポスター一枚に分かりやすくまとめるのはとても苦労しましたが、情報を分かりやすく、すっきりと伝えつつも、見る人の目を引くようなインパクトのあるデザインを心がけて試作を重ねました。試行錯誤を繰り返し、ポスター案は25枚にも及びましたが、結果としてとても良いポスターが制作できたのではないかと考えています。

実際に出展した際には、本当に多くの方に見ていただくことができました。見ていただいた方に感想をお聞きしたり、コメントを書いていただいたりしましたが、予想以上に好意的な反応が多くて驚きました。おもしろい発表があるという話を聞いて見に来たとおっしゃられる方も多く、反響の大きさを感じました。また、好意的な反応だけでなく、様々な立場の方から改善点や今後に向けたアドバイスをいただき、とても勉強になりました。特に、学校図書館で司書をされている方が下さったアドバイスには、実際に子供たちと接している立場ならではの視点があり、大変参考になりました。

今回の出展にあたっては、苦労したことも多かったですが、満足いく結果を出すことができ安心しています。私は今年初めて図書館総合展に参加しましたが、たくさんの方が図書館について真剣に考え、活発に交流しているのを実際に肌で感じ、多くの刺激を受けました。普段は関わることのない企業の方や社会人の方が、学生である自分たちの話を真剣に聞いてくださり、いろいろな立場の方と意見を交換することができて、とても貴重な体験をさせていただいたと考えています。

図書館総合展という大きな場所で発表させていただき、運営委員会特別賞という賞もいただくことができ、協力してくださった方々には感謝の念に堪えません。免許資格課程センターの原田隆史先生、佐藤翔先生、ラーニング・コモنزの岡部晋典先生には、ポスター制作に関して多くの助言をいただき、大変お世話になりました。

図書館総合展という場所は、年齢、立場の垣根を超えて様々な人と「図書館」でつながることのできる、とても貴重な学びの場所であると思います。これからもDUALISが図書館総合展から多くを学んでいくことを期待しています。

